

# 文・学・生・大・会・に・結・集・し 本館封鎖をかちとれ!!

## 学生会議

教育大のすべての学友諸君、太まかなく文学部の学友諸君、我々はストライキ斗争の二日目を迎えるようとしている。昨日のストライキ斗争が対理学部教授会団交争として断乎としてオートラレたことを報告するとともに、今日のストライキ斗争を成功的にかちとり、明日からの長期ストライキ体制奉館封鎖を大衆的に準備していくことを訴えたい。

現在、六二の調査ヒ計上が評議会段階において決定され、しかも小林理学部長が明確に述べたように「最終的に、MPO委において修正、補充していく」とが明文化されている中にあって、我々がこの調査ヒ計上を白紙撤回させるということは、非常に困難な段階にきてはいる。しかし先、筑波移転計画それ自身も具体的に既成事実化され、土地名跡の買収、高速道路の建設等々という形ではMPO委の最終答申をもって移転を開始するという状況になつてはいる。(これに対し、いわゆる文学部教授会の対応は自身が何等、筑波移転推進の歯止めとなが奉くなつてしまつたことは昨年の六二(声明)というものが出来たにもかかわらずその後の移転推進のなげくず的実質化(MPO委の中間報告、今回の調査ヒ計上)ということをもつてはや明白となつてしまつてはいる。(つまりこのことは、文教授会がそれなりに彼等の態度を賛いた(評議会からの退席)にもかかわらず、六二の決定がなされたということがどう見るならば、彼等教授会の筑波移転阻止の「戦術」が命令明白に破産したものと言わざるを得ない。(このような現実の中にあって筑波移転阻止の斗争の方向性といつたものはいかに設定されなければならぬのか。今や、この斗争から完全に消えてはいるところの民青系諸君の「民主主義擁護」「五学部一致の原則を守れ」なる旧態依然たる方針といつたものは、我々の斗争の勝利にとって問題となるならばかりか、我々の筑波移転阻止といつ意識的な斗争、「民主主義が否か」の勝利にとって問題となるならばかりか、我々の「民主的教授のしり押しさ」ではなく、教育大のすべての学友が、筑波移転阻止の強固な意志を結集して学生自らの力によって阻止を実現していくといふ内容のものでなければならぬ」と考える。つまりこのことは現在の状況がもはや一切の迂回路線といつもの許されず、しかもなお「話し合」による解決といつたものがこの間の推進派の策動を見てもうば、一切の有効性を持てないといつこども又確認しなければならない。推進派の強固を率やきつすくかし、彼等を屈服させる力といつものは学生の大衆的結集を背景としたところの実力阻止斗争以外にならぬのだ。

もはや状じは最終局面を迎えてはいる。移転を実質化せざるか否かにつけられていよいよこの局面に際して全学生の総力を結集して今回の調査ヒ計上撤回をかちとつていかなければならぬ。

学友諸君、我々の目標はあくまでも評議会であり、この対評議会大衆団交を勝ちとつていいかなければならぬ。

学友諸君、我々の目標はあくまでも評議会であり、この対評議会大衆団交を勝ちとつていいかこそ我々の強固なストを背景としたところの本館封鎖なのである。一切の事由材能をストップさせ、学長評議会を屈服させ因交の場にひきだり出そうではないか!

### 六二調査ヒ計上決定白紙撤回!

対学長、評議会大衆団交をかちとれ!

筑波移転粉碎!

教育の帝曰主義的再編反対!